

令和3年度 第2回学校評議員会記録

日時：令和4年1月31日（月）

10：30～11：30

会場：本校視聴覚室

1 開会の言葉

2 校長あいさつ

師走あたりから積雪、寒さが厳しい日が多くなってきている。新株オミクロン株の拡大に伴い、冬季休業明けも活動の制約、制限を余儀なくされている。学部からの説明でも触れるが感染予防として行事の一律中止ではなく、代替措置やオンライン授業での対応など新しいスタイルも工夫しながら取り入れている。修学旅行や高等部の事業所実習など多くの制約を受けながら実りある「学びの保障」「安心・安全の保障」のバランスを見極めながら進めている。来年度本校は創立60周年の開校記念日を迎える。新しい方向性や役割を見直す時期であるので、さまざま御提言をいただきたい。また、来年度から「学校運営協議会(コミュニティスクール)」の実施に向けたとりまとめをしている。御意見等あればよろしくお願ひしたい。

3 学校評議員紹介

4 学校職員出席者紹介

5 学校概要説明

- (1) 令和3年度学校評価(自己評価)実施結果について
- (2) 各学部の取り組みについて
- (3) 相談支援事業について
- (4) 進路状況について
- (5) その他

6 意見交換（各評議員からのご質問・ご意見）

○高橋 賢誠評議員(県立療育センター事務局長)

コロナで思うように行事ができない中であるが、子供たちにとって楽しみにしていた修学旅行等代替活動として実施し、先生方の工夫で思い出に残るような経験になったと思う。先生方の一生懸命さを感じた。今後の状況も見えないが、工夫を重ねて教育活動を進めていってほしい。

○名取 泰博評議員(藤沢地区民生委員)

資料を拝見して、高等部の大きな変化が目についた。コロナのデメリットはあるが、使える時間が増えたともいえる、今回の経験をコロナ以降に生かして行ってほしい。前回、矢巾東小学校校庭に通じる通路の話が出たが、進展はないだろうか。学校評議員会のメリットとして、評議員から外部に声をあげることができる。義務教育学校と県立学校での管轄の違い等はあると思うが、小学校と支援学校との交流は新しいこの地域の象徴として大切に考えたい。この立地条件を生かしていけるように発信できる場があれば進めていきたい。

○深野 淳評議員(矢巾東小学校校長)

名取評議員のお話にもあったが、両学校の間は町の所有である。用途についていろいろ考えていたところだが、今後検討していきたい。授業参観をして子供の実態に合わせた授業の丁寧さを感じた。入院している児童生徒への対応やリモート授業等、学びの保障を大切にしていることに感銘を受けた。また、ぜひ本校職員も見学の機会をお願いしたい。

7 その他

学校評議員の皆さんに来年度継続して学校運営協議会の構成員になってほしい。今後電話等で連絡したいと考えている。

8 校長より

本日は、評議員の皆様から貴重な御意見、御感想をいただき感謝する。本校を取り巻く環境の変化の中で、本校の役割や機能も変化すると考えられる。「安全・安心」な学校づくりを強化していくので、評議員の皆様には今後学校運営協議会員として力添えをいただきたい。

9 閉会の言葉